

## できごと

平成 30 年 11 月 5 日（月）6 日（火）に国立国会図書館国際子ども図書館で平成 30 年度「国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座一国際子ども図書館所蔵資料を使って」が開催されました。参加者は全国で児童サービスを担当している図書館員、児童書研究者、児童書出版関係者等です。今回は「絵本と子どもの原点を見つめるー子どもの成長発達と絵本」がテーマでした。（2 ページ目にて、概要を紹介します。）

9 月 27 日（木）、平成 30 年度公立図書館等職員専門研修「児童・青少年サービス研修」が

開催されました。参加者は県内の公共図書館で児童・青少年サービスを担当している図書館員です。平成 30 年度はヤングアダルトサービスをテーマに、岡千帆氏（愛知県図書館）に「愛知県公立図書館長協議会ヤングアダルトサービス連絡会の活動について」、木下通子氏（埼玉県立浦和第一女子高等学校担当部長兼主任司書）に「YA の心に寄り添う図書館づくり ～高校司書に聞く高校生の現状」についてそれぞれお話しいただきました。（3 ページ目にて、概要を紹介します。）

### ◇イベント情報◇

#### ◆新刊サロンのご案内

日時：12 月 8 日（土）、平成 31 年 2 月 20 日（水）いずれも午前 10 時 30 分～12 時  
会場：県立中央図書館 子ども図書研究室  
対象：児童書に関心のある 15 歳以上の方ならどなたでも（中学生を除く）

### ◇お知らせ◇※申込は終了していますが、情報提供のため掲載します。

#### ◆小学校対象「プログラミング教育に関する推薦図書 10 冊」寄贈について(2018/11/1公表)

一般社団法人情報サービス産業協会(JISA)は、コンピュータ出版販売研究機構(CPU)が主催する「プログラミング書籍品評会」で選ばれた「プログラミング教育に関する推薦図書 10 冊」を全国の小学校 100 校に寄贈します。

我が国では、2020 年から全ての小学校においてプログラミング教育が必修化されます。そのためには、ソフトウェア、機器、通信ネットワークなどの環境整備が必要となりますが、必修化までに必要な環境を整えることが困難な小学校もあると思われます。そこで JISA は、すべての子ども達がプログラミングに触れることができるよう、一人でも学べる書籍を全国の小学校 100 校の図書室にお届けしたいと考えました。

今回 JISA が寄贈する「プログラミング教育に関する推薦図書」は、コンピュータ出版販売研究機構(CPU)が主催する「プログラミング書籍品評会」で選ばれた 10 冊です。

また、本活動を通じて、プログラミングを身近に感じてもらい、関心のある生徒さんたちには、JISA 会員企業が持つプログラミングキットによる演習などを実施していきたいと考えています。

◆主催：一般社団法人 情報サービス産業協会(JISA) コンピュータ出版販売研究機構(CPU)

◆後援：未来の学びコンソーシアム

※申込は終了しています。

※推薦図書 10 冊の内容など、詳細は一般社団法人情報サービス産業協会のwebサイトをご覧ください。[https://www.jisa.or.jp/public\\_info/press/tabid/2667/Default.aspx](https://www.jisa.or.jp/public_info/press/tabid/2667/Default.aspx)

## 児童文学連続講座 「子どもの発達と絵本・読書」

平成30年度の国際子ども図書館児童文学連続講座は、「絵本と子どもの原点を見つめる—子どもの成長発達と絵本」をテーマに開催されました。講師は、石井光恵氏（日本女子大学教授）、真鍋真氏（国立科学博物館標本資料センター長）、秋田喜代美氏（東京大学大学院教授）、村中李衣氏（ノートルダム清心女子大学）の4名です。その中から、秋田氏による講義「子どもの発達と絵本・読書」について一部報告します。

平成30年4月に閣議決定された「第四次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」における改正の主なポイントについて

依然として高校で不読率が高くなる傾向がある。読書の関心度合が低くなり、本から遠ざかった子、中学までの読書習慣の形成が不十分だった子がいる。次期計画では、同世代で互いに本を薦め合うような取組の充実や、発達段階ごとに効果的な取組を推進することが重要である。また、情報環境の変化が子どもの読書環境に大きな影響を与えている可能性があり、その実態把握・分析を行う必要があるため、モデル校で研究を始めている。

読書の始まり：乳児期からの絵本について  
大人にとっては良い絵本を手渡すことなどが教育において「質が高い」とされるが、子どもにとっては、安心感や居場所感を得て、文化的価値ある対象（絵本）に没頭できるかが大切であり、それらが最終的には子供の資質や能力に関わる。また、「絵本・読み聞かせの有無による行動変化は10ヵ月児で最も大きく、BGMよりも人の声による読み聞かせの方が、絵本に長く注意を向ける」という研究報告があり、10ヵ月児の注意増加は人の声による話しかけが引き起こしている可能性が高い。なお、母親と他

人の声による違いはない。

幼 児期・児童期の発達と読書  
乳児期後期から幼児期へは「やりとりを仲間と共に言葉で楽しむ」、「場面間の繋がりや筋を楽しむ」ことができるようになる時期。3歳から5歳頃は脳科学的にも語彙力などが一番増える。ごっこ遊びなどできるようになる3歳頃には、ルールや筋がわかるようになり、お話も楽しめるようになる。また、「繰り返し同じ絵本を読むことによって、子どもは見通しや振り返りができる力を持つことができるようになる」という研究報告もある。

不 読率は、学校移行のタイミングで変化があるため、このタイミングでどのようにうまくバトンを繋ぐかが課題。小中学生は長中期的に改善傾向だが、高校生は依然として高い。（第63回学校読書調査）。年齢が上がるに連れ、家庭の関わりの影響が減少し、中学、高校では友だちとの関わりが増加する。中高校段階では自らも「読書推進する主体」となることが大切と考えている。また、読書推進体制が活発な学校では生徒の読書冊数は増加する傾向があり、活発ではない学校と大きな差がある。学校間の差は個人差よりも深刻ではないかと考えている。学校で積極的に取り組めば読書が苦手な子も読むきっかけを得ることができる。

### 所蔵資料から

#### 知識



『国際子ども図書館児童文学  
連続講座講義録平成29年度』  
国立国会図書館国際子ども  
図書館／編集 2018年

前年度は「絵本はアート、絵本はメディア」と題して、視覚表現性という視点から絵本に迫る講座でした。講座は例年、詳細な記録が刊行され、今年度分も刊行が予定されています。（安田）

## 公立図書館職員専門研修 児童青少年サービス研修

YA(ヤングアダルト)サービスとは、主に10代の利用者に対して公共図書館がするサービスのことで、ティーンズサービスとも呼ばれています。公共図書館ではこのYA世代の利用が全体に比べて低い傾向にあり、利用の働きかけが課題となっています。



**愛**知県では、県内のYAサービスに関する情報を広く収集し周知するために「YAサービス担当者連絡会」を設置しています。連絡会の事務局にもなっている愛知県図書館の岡氏に事例報告をしていただきました。

連絡会の委員は愛知県図書館の職員、県内3地区から図書館員1名ずつの計4名です。会では年1回の研修を開催するほか、YA向けの本のブックレビュー共同データベースの運営やYA向けブックガイド「A・L・C(あるく)」の発行、県内のYAコーナーをつなぐ「ティーンズリンク」の作成等を行っています。YA世代に図書館を利用してもらいたい、本を読んでもらいたいという思いで、試行錯誤の中続けられている活動はとても勉強になりました。

静岡県では現在このような連絡会はありません。報告後のグループワークでは、「愛知県のように情報共有データベースを作りたい」「地区レベルで学校司書とも連携して情報交換したい」「県内の中高生の図書委員が学校・学年を越えて集まる場を作り、当事者目線によるYAサービスの充実を図りたい」等の意見が出ました。



**埼**玉県には約150校の県立高校に選任・専門・ほぼ正規の司書が配置されています。講師の木下氏は学校司書として30年以上のキャリアがあります。県内の高校司書有志で毎年「埼玉県の高学校司書が選んだイチオシ本」の発行、ビブリオバトル普及委員、県図書館まつりの運営などにも携わっていらっしゃいます。

**浦**和第一女子高校にはこの4月に転勤されました。県内有数の進学校であるからか英語の多読本や新書の貸出が多く、その他の本をどれだけ貸し出せるかが課題だそうです。赴任当初、図書館はほぼ自習室だったそうですが、講義ではそこで始めた様々な取り組みが紹介されました。新着図書は全てお知らせする、管理職や養護教諭と連携しながら図書館を居場所としても提供する、教員への積極的な資料提供、生徒に紹介するには自分が読んで薦めるのが最も有効なため文芸書は必ず読むようにしているなど具体的にお話しいただきました。

また、「読めない子」が増えているといわれるが、小説が読めれば落ち込んだ時に救われることがきっとあるはずなので読めるようになってほしいという言葉が印象に残りました。生徒と向き合い、情熱的にお仕事をされている姿勢から学ぶことが多くありました。

その他公共図書館へのアイデアとして、「子どもは書棚を見てリクエストをする、書棚で図書館の姿勢を示す」「職場体験に来る中高生に図書館でできることやポリシーを伝えてほしい」「学習スペースに息抜きとなるようにメッセージボードで本の紹介をしてみたらどうか」等を教えていただきました。



**研**修をとおして、地域と学校で連携して包括的なサービスを実施する必要性を改めて感じました。今後、県内各地のYAサービスがより充実されることが期待されます。

### 所蔵資料から

#### 知識



『読みたい心に火をつけろ!』

学校図書館大活用術』

(岩波ジュニア新書 855)

木下通子／著

岩波書店 2017年6月

講師の木下氏のこれまでの実践

が、実際の生徒とのやりとりや取組みを例に詳しく書かれ、学校図書館の魅力が伝わります。(眞子)

知識



『性の多様性ってなんだろう？  
中学生の質問箱』

渡辺 大輔／著 平凡社  
2018年6月

実はとても多様な人間の性。体の性、心の性、好きになる性をかけ合わせると24通りにもなり、さらにこれらに当てはまらない人もいる。体と心の性が一致して異性を好きになる、いわゆる「普通」はこの中の2通りに過ぎない。著書はセクシュアリティ教育が専門。対話形式で「恋バナはみんな共通の話題なのか」等身近な話題から丁寧に解説。性のあり方に限らず、あらゆる面で多様な自分や他者を互いに尊重し、より豊かな社会にしていくことも問いかける。相談窓口等の掲載も。【中学から】(安田)

読物

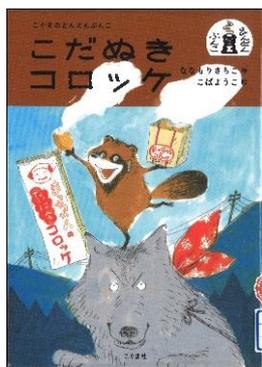


『ある晴れた夏の朝』

小手鞠 るい／著  
偕成社  
2018年8月

アイランド系アメリカ人の父と日本人の母を持つ日系アメリカ人のメイは、15歳の夏休みに公開討論会に参加することになった。討論会では広島と長崎への原爆投下の是非を問うという。原爆否定派として参加するメイはリサーチや話し合いを重ねるが、肯定派からも説得力のある資料が次々と出てくる。様々なルーツを持つ登場人物や「落とした側」であるアメリカを舞台としたことで、戦争と平和について多面的に考えることができる。著者は米在住。巻末に核関連年表あり。【中学生から】(眞子)

読物



『こだぬきコロッケ  
こぐまのどんどんぶんこ』  
ななもり さちこ／作  
こぐま社  
2018年6月

こだぬきぼん吉は大昔から続く「たぬばけ道場」三十八代師範になる筈なのに、化けるのが下手で叱られてばかり。ある日、怒られてふてくされたぼん吉がまるまって寝ていると、お腹をすかせたオオカミがコロッケと間違えてガブリ。ぼん吉は人間に化け、オオカミは犬のふりをしてコロッケを探しに人間の村へ行くが、お金もないのにコロッケを食べてしまい…。どの頁にも挿絵が入り、軽快に話が進む。ぼん吉もオオカミもコロッケ屋のおばさんも個性的で魅力的。【小学校低学年から】(青山)

絵本



『ソフィーと  
ちいさなおともだち』  
パット・ジトロー・ミラー  
／文  
光村教育図書  
2018年8月

ソフィーは、ファーマーズ・マーケットで選んだかぼちゃにマーカで顔を描き、バーニスと名前をつけた。だっこしてもぴったりのちいさなおともだちバーニスと一緒に図書館で本を読んでもらったり、でんぐり返しをしたり。両親はかぼちゃの変化を気にしながらもソフィーの気持ちに寄り添う。やがてバーニスを土のベッドに寝かせるソフィー。雪が降り、春が過ぎ、夏の朝に見たものは？ 命はつながり、新しい世代のおともだちにまた会えた。2014年度ゴールデン・カイト賞。【5、6歳から】(宮崎)